

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2014 12 - 2015 1 vol. **29**

絵本原画展 かがくい ひろし

特集 ものづくり



かがくいひろし



いつまでも輝く、かがくいワールド。
笑いはしんどい時にもパワーをくれる。
だから僕は、絵本を読んでみんなに
笑ってもらいたい。

かがくいひろしプロフィール

1955年東京生まれ。東京学芸大学卒。教諭として学校勤務のかたわら人形劇の活動や紙を使った造形作品を発表。2005年、『おもちのきもち』(第27回講談社絵本新人賞受賞作品)で絵本作家としてデビュー。
子どもの目線に立ったテーマ選びと、ほのぼのとした画風が人気を集め、以来話題作を多数発表。2009年逝去。



『はっきよい畑場所』
(2008年 講談社)



『なつのおとずれ』
(2008年 PHP研究所)



『ふしぎなでまゐ』
(2008年 講談社)



『もくもくやかん』
(2007年 講談社)



『おもむきさんちのたうえのひ』
(2007年 PHP研究所)



『おもちのきもち』
(2005年 講談社)



『まぐらのせんにん そこのあなたの巻』
(2010年 佼成出版社)



『おふとん かけたら』
(2009年 ブロンズ新社)



『みみかきめいじん』
(2009年 講談社)



『がまんのケーキ』
(2009年 教育画劇)



『まぐらのせんにん さんぽみちの巻』
(2009年 佼成出版社)

絵本原画展開催

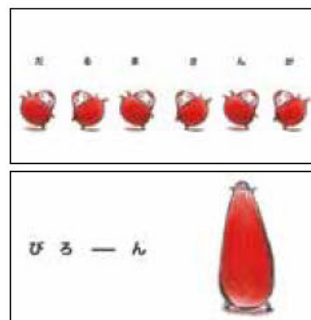
平成26年11月29日(土)～平成27年2月1日(日)



『だるまさんと』
「だるまさん」シリーズ第3弾。
だるまさんと…さあ、どうする!?



『だるまさんの』
「だるまさん」シリーズ第2弾。
だるまさんの…さあ、何かな!?



『だるまさん』
ページをめくるとにだるまさんの
奇想天外な動きに大笑い!
だるまさんが…さあ、どうなる!?

原画展示絵本

冬のギャラリーでは、泣く子も笑う大人気絵本「だるまさん」シリーズ、リズム感あふれる『おしくらまんじゅう』ををご紹介します。

ブロンズ新社編集の 沖本さんにインタビュー



かがくい先生はどんなお人柄でしたか？

温かく包み込むようなお人柄でした。人を和ませることに長けていて、緊張している人がいたら、面白い事を言って場の空気を寛がせ、相手から笑顔を引き出すのがすごく上手でした。かがくいさんの作品を読んだ時に感じる、圧倒的な安心感がかがくいさんの人柄そのものです。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

「だるまさん」シリーズ

「だるまさん」は、初めてお会いした際にラフを見せていただき、その場で刊行を即決しました。教員のお仕事と介護ですごくお忙しかつたけれど、読者はがきを喜んで、一枚一枚にだるまさんのイラストつきのお礼のがき送って下さっていました。

「おしくらまんじゅう」

日本人の耳に自然と馴染んだリズムをベースにした絵本をつくりたいと、アイデアを見せてくれたのが「おしくらまんじゅう」です。まんじゅうの絵のあまりの可愛さに、刊行時には記念品として、和菓子屋さんに箱入りの紅白まんじゅうを注文して、まわりにお配りしました。

かがくい先生ご使用の画材や絵本をお作りになる際のこだわりは？

バステルや水彩絵の具、ボールペン、色鉛筆など複数の画材を使われていました。指でこすったニュアンスなどもすごく大事にされていて、

筆だけでなく手も使って作り込むように描かれており、ただく原画には人の体温が宿ったような、あたたかな存在感がありました。

もし先生が生きておられたら、今ごろどんな絵本を作っておられたでしょうか？

「だるまさんカルタ」「ぼたもちの本」「たまごの本」。一緒に作りましょと盛り上がりつつあった作品は数えきれません。お会いする度、新しいアイデアを心底嬉しそうに見せてくれたかがくいさん。生きていらしたら、読者が大喜びするような絵本を次々出してくれたと思います。

かがくい先生との思い出や印象深いできごとを教えてください。

教員のお仕事と介護の合間を縫い、多忙な中での絵本制作。本がヒットしてもなかなかお祝いの席を設けられませんでした。そんな中、唯一実現した山形の講演会へ向かう新幹線の中で、缶ビールとおつまみで乾杯し、たくさん話をした、ささやかな祝賀会は私の大切な思い出です。

かがくい先生のファンの皆さんへ、メッセージをお願いします。

「笑いはいんどい時にもパワーをくれる、だから僕は、絵本を読んでみんなに笑ってもらいたい」と、かがくいさんはよく話されていました。その思いがつまった絵本を読んで、大きな声でたくさん笑ってくれたら嬉しいですね。たくさん笑った記憶は心の糧となり、その後の人生をきつと豊かなものにしてくれるはずです。

沖本さん、ありがとうございました！

アイドルと加岳井君

寮生活とともにした友人 水島尚喜
(聖心女子大学教授)

加岳井君の絵本の魅力的なキャラクターは、どこから生まれてきたものなのでしょうか。

例えば「まぐら」のせんにんでは、ぱっちり目のまぐらが主人公です。このキャラクターの目は、タレントの中川翔子さんの目を模したものであることがよく知られています。

彼のアイドル好きは、若い頃からでした。彼の20代のころのアイドルは、太田裕美さんで、彼女の最大のヒット曲である「木綿のハンカチーフ」は、彼の愛唱歌で、おはこでした。寮での飲み場では、私のギター伴奏でよくこの曲を歌いました。その他にもピンクレディーやキャンディーズもお気に入りでした。そのようなアイドルの歌のときは、必ず振り付けをつけ、歌の合いの手には「裕美ちゃんー」とか「ミーちゃんー」と叫ぶのです。歌の後には、しみじみと「裕美ちゃん、ええな」とうっとり顔で頷いていました。アイドルの存在に本当に入り込んでいたのです。

そんな彼は、学生時代よりシリアスな実存的な彫刻作品を作っていましたから、彼の可愛いアイドル好きと制作する作品とのギャップに、周囲の人は大いに魅力を感じていました。実際に彼は二面性がありました。「聖なるものと俗なるもの」への強い憧れです。女性の好みにしても、太田裕美さんのようなキュートなアイドルが好きかと思えば、ジュリー・アンドリュースのような聖女タイプの女性にも強い魅力を感じていました。うつつです。(ちなみに奥様の久美子さんは、後者のタイプです！)



1980年広君(左)と久美子さんの結婚式にて「木綿のハンカチーフ」を歌う。(右・水島さん)

水島さん、ありがとうございました！

かがくい ひろし先生の 絵本を3名様にプレゼント

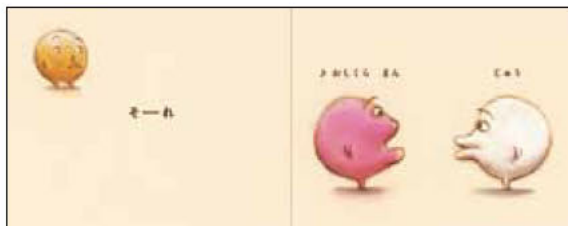
応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50
射水市大島絵本館
かがくい ひろしサイン本プレゼント係
締め切り 平成27年2月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。

おしくらまんじゅう



『おしくらまんじゅう』
(ブロンズ新社)



おなじみの「おしくらまんじゅう」の歌にあわせて最初にでてきたのは紅白まんじゅうさん。色々な物がおしくらまんじゅうをはじめます。

『おしくらまんじゅう』



桑原 竜哉
射水市大島絵本館 指導員

特集 / ものづくり

「つくる」を通して表現する面白さ

私が幼かった頃、幼稚園の先生にプラ板で作った、その当時流行していたアニメのキャラクターが描いてあるキーホルダーをもらったことがあります。2種類ありましたが、私がもらったのは好きじゃない方のものでした。もう片方のキャラクターのキーホルダーがどうしても欲しくてたまたまなく自分でプラ板を作ることになりました。プラ板作りとはプラスチック板に絵を描いてオーブントースターなどで加熱すると、プラスチック板の面積が縮小して厚みが増し、手作りアクセサリとして活用できるというものです。家でも手軽に作れて、幼かった私でも最初から最後まで自分で作ることが出来ることに魅力を感じ、たくさん絵を描き、プラ板作りに熱中しました。私が絵やものづくりに興味を持ち好きになったきっかけはこのプラ板作りからかもしれない。

*

絵本館には「つくる」コーナーが二つあります。その一つがCGワークショップです。私は今このコーナーを担当しています。このコーナーではパソコンでお絵かきをして、その絵をカレンダーやしたじき、キーホルダーなどのオリジナルグッズにすることが出来ます。小さい子から親御さんまで多くの方が利用していき、オリジナルグッズ

ズを制作していきます。私が幼い頃そうであつたように好きなアニメやゲームなどのキャラクターを真似して描く子が多いようです。好きなアニメやゲームのキャラクターはものをつくるきっかけとしてとても最適でより意欲的に楽しく絵を描くことが出来ると思います。どの子も真剣に自分の納得するまで描いていきます。しかし、小さい子はなかなか自分の思うように絵を描くことができず悪戦苦闘しますが、なんとか絵を完成させ、グッズにして渡してあげると、本当にうれしそうに喜んでくれます。このコーナーを通じて絵やものづくりに少しでも興味や面白さ、自分で何か一つのものを作り上げることの達成感や喜びなどを感じ取ってくれば幸いです。

*

絵を描くことは日々感じた楽しかったことやうれしかったことを伝える一つの表現方法であり、子どもたちは感じるままに素晴らしい絵を描きます。自由で何の束縛もなく、のびのびとした絵はどんな上手な大人の絵にもかなわないと感じさせられます。絵やものづくりを通して得ることのできる夢中になれる創造の時間が、必ず子供たちの中に生きる意欲を培い、感性や想像力、表現力を豊かに育ててくれると信じています。

私のおすすめ絵本

『多毛留』

米倉 齊加年 / 文・絵
偕成社

日本と朝鮮の関係を描いた絵本。細密なタッチで描かれた挿絵がとても魅力的な絵本です。



『ババはわるものチャンピオン』

板橋 雅弘 / 作 吉田 尚令 / 絵
岩崎書店

ババの仕事は悪者プロレスラー。たとえ悪者でもババを応援する子どもの素直な気持ちにじーんときます。



『おいしいのぼうけん』

ふるたたるひ / 作
たばたせいいち / 絵
童心社

小さい頃に初めて買ってもらった思い出の絵本。ねずみお婆さんの存在を今でも覚えています。



『ミケランジェロ』

キアラ・ロッサーニ / 文
ビン・バランドマン / 絵
森田 義之 / 訳
西村書店

ルネサンスの巨匠ミケランジェロの生涯とその作品群がこの一冊でわかる。やっぱり天才は努力を惜しまない。



『ミラクルゴール!』

マイケル・フォアマン / 作
せなあいこ / 訳
評論社

プロのサッカー選手になって大活躍する夢を絵本の中で…。すべてのサッカーファンに捧げる絵本です。



『マドレンカ サッカーだいすき!』

ピーター・シス / 作
松田 素子 / 訳
BL出版

マドレンカがなりたいもの、それはサッカー選手。読めば、サッカーがしたくなる1冊です。

